

基本構想（案）の修正内容について

1.（前半）河内長野のいま

●前半の「すでにある事実にもとづく一問一答」については、Q.はほぼ変更しておらず（※）、A.について、専門部会のご意見や庁内からの指摘（事実確認）を踏まえて修正している。

※冒頭の「河内長野のまちづくりは、」の箇所のみ、全体の表現の統一を図るため前回の「河内長野市のまちづくりは、」から「市」を削除している。

Q.	A.	A.（前回）	修正理由・意見等
河内長野のまちづくりは、 今、どうなってるの？	ターニングポイント 若年層（0～14 才）の転入が、7 年連続で転出を上回り、子育て世帯から選ばれるまちに。	ターニングポイント 若年層（0～15 才）が 7 年連続で転入超過。 子育て世帯の転入が増えています。	「転入超過」の表現を分かりやすく伝わるよう修正。
どうして、若い世帯が 引っ越してきているの？	空き家の循環 大阪最少だった空き家率に変化のサイン。 長く住み続けるまちから、住み継ぐまちへ。	空き家の循環 大阪最少だった空き家率に変化のサイン。 長く住み続けるまちから、住み継ぐまちへ。	変更なし
大阪のなかでも、 河内長野が いちばん強いのは？	地盤 「強い地盤」ランキング、ダントツの最高スコア。 府内で 1 番地盤が強い河内長野。	地盤 「強い地盤」ランキング、ダントツの最高スコア。 府内で 1 番地盤が強い河内長野。	変更なし
河内長野は、 安心して住めるまちなの？	防犯も、大阪一 犯罪発生率、府内市中、最少。 防災も、防犯も、安心のまち。	防犯も、大阪一 刑法犯認知件数、府内最少。 防災も、防犯も、安心のまち。	刑法犯認知件数の、町村についての統計がないため、正確を期すために説明を修正。

Q.	A.	A. (前回)	修正理由・意見等
窓をあけると、 近くに見えるのは？	みどり 自然が身近にある暮らし。 緑視率が高く、森林面積も府内市中 1 位。	みどりが近い 森林の面積は府内市中 1 位。 緑視率も高く、自然が身近にある暮らし。	「見えるのは？」の問いに「みどりが <u>近い</u> 」は変というご意見、説明の順序についてのご意見を受けて修正。
川を流れてるのは？	きれいな水 大阪で唯一、全域水質 AA の石見川をはじめ、 ムササビやサンショウウオも暮らす、美しい自然。	ホタルやオシドリ 大阪で唯一、全域水質 AA の石見川。 秋になるとオシドリがやって来る、 滝畑ダム。	ホタルが必ずしも川の美しさの指標にならないこと、オシドリが近年は観察された記録がないため、生物多様性保全の担当部署に確認の上、修正。
道のそばで にぎわっているのは？	道の駅 人気ランキング大阪 1 位。 道の駅 奥河内くろまろの郷、絶好調の発進。	道の駅 人気ランキング大阪 1 位。 道の駅 奥河内くろまろの郷、絶好調の発進。	変更なし
地域の自然や暮らしを 守っているのは？	まちのみんな リサイクル率、府内市中 2 位。 まちのゆたかさにつながる、一人ひとりの営み。	市民 リサイクル率、府内市中 2 位。 まちのゆたかさにつながる、一人ひとりの営み。	「市民・事業者など、河内長野に関わるすべての方を包含する表現に修正。
新しく暮らしはじめた人も、 馴染みやすいのはなぜ？	心地よい つながり 新しい人にひらかれた河内長野。 伝統も、新しい挑戦も、大事にできるまち。	心地よい つながり 新しい人にひらかれた河内長野。 伝統も、新しい挑戦も、大事にできるまち。	変更なし
河内長野の歴史は？	1000 年 中世文化遺産の宝庫。 日本遺産に認定された「中世に出逢えるまち」。	1000 年 中世文化遺産の宝庫。 日本遺産に認定された「中世に出逢えるまち」。	変更なし

Q.	A.	A. (前回)	修正理由・意見等
河内長野で 1000 年、 続いてきたものは？	ふだんの暮らし 文化財だけでなく、この地で連綿と 続いてきた 「暮らし」そのものが、まちの資産。	ふだんの暮らし 文化財だけでなく、この地で連綿と 続いてきた 「暮らし」そのものが、まちの資産。	変更なし

2. (本体である後半) 河内長野のこれから

(1) 全体

①修正内容とその意図

- 全体を3つの問いかけに対して6つのコピーで応答する全体の枠組みは維持しつつ、内容の重複を整理。一部はコピーの統廃合を行った。
- 体系にテーマ性を持たせる観点から、3つの問いかけを「暮らし」「ひと」「まち」に整理し、それに答えるコピーの位置づけも再編した。
- 専門部会の皆様や、庁内の意見を踏まえて、コピーを修正するとともに、補足解説部分を説明文として成文化した。

【新旧対照表】

問いかけ	旧(第2回専門部会)	新(第3回専門部会)
10年後、私たちは どんな「ふだん」を 生きているの だろう (暮らし)	1-1：自然が元気、みんなも元気。	1-1：まちが元気、みんなも元気。
	1-2：ホテルも、子どもたちも、光ってる。	1-2：ホテルも、子どもたちも、光ってる。
	1-3：水が美味しい。川が、まちが、美しい。	1-3：揺るがない安全と安心感。
	1-4：求心力も抜群？ 日本一「安心」なまちへ。	1-4：人のつながりも、大きな安心に。
	1-5：オンラインで、まちづくりに参加？	1-5：暮らしの中に、「できる。」がふえる。
	1-6：ちょうどいい近さの、ご近所さん。	1-6：好きなときに、好きなところへ。
「じぶん」が 活きるまちって、 どんなまち だろう。 (ひと)	2-1：全員、主役。全員、ファン。	2-1：みんなが、主役。みんなが、ファン。
	2-2：支えて、支えられて、活かし合って。	2-2：支えて、支えられて、活かし合って。
	2-3：地域がまるごと、学校。	2-3：あたらしい一歩、踏み出し放題。
	2-4：学びを、誰かの喜びに。	2-4：地域がまるごと、学校。
	2-5：動いた先で、いくつもの感動を。	2-5：学びを、誰かの喜びに。
	2-6：みんなバラバラ、みんなイキイキ。	2-6：住(じゅう)を、もっと自由に。
これから、どんな「好き！」を 深めていける だろう。 (まち)	3-1：まちの顔を、笑顔でいっぱい。	3-1：まちの顔を、笑顔でいっぱい。
	3-2：あたらしい一歩、踏み出し放題。	3-2：サクセスフルな、サステナブル。
	3-3：推せるものを、育てるうれしさ。	3-3：“ここにしかない”時間を求めて。
	3-4：住(じゅう)を、もっと自由に。	3-4：地産地消で、日本一の給食カレーを。
	3-5：畑で活躍するクリエイター？	3-5：“推し”と出会えて、育てるうれしさ。
	3-6：つながって、叶えていく。	3-6：“好き。”が集まれば、すごい力に。

(2) 個別の修正内容

10 年後、私たちは

どんな「ふだん」を生活しているのだろう。

1－1：まちが元気、みんなも元気。(旧 1－1。コピー変更。)

【説明文】

深呼吸したくなるようなゆたかな自然、美しく整備された街並み、充実した教育や子育て環境、活気ある産業や観光、農業に林業、そして、人と人の心地よいつながり。10 年後の河内長野は、もっと美しく、もっといきいきしたまちに。みんなの「ふだん」も元気にあふれています。

【前回補足説明等】1－1：自然が元気、みんなも元気。

豊かな自然を手入れしながら守り続けることが出来る(守るための担い手がいる。担い手は役所だけでなく、市民も)

→自然がただ現状維持ではなく、市民のみんなで思い入れをもって手入れをすることで、よりいきいきとしたものとして自然を感じることができる状態に。

義務として手入れに取り組むのではなく、自然とかかわる時間がふえることで、日々のゆたかさや活力が増していく。さらに、ゆたかな自然を活かして農林業や地場産業、商業もより発展し、産業・経済の面でも元気に。

①修正内容とその意図

当初「自然」にフォーカスしていたが、「暮らし」編の冒頭コピーとして、自然だけでなく教育・子育てや仕事、人とのつながりなど、暮らしに関わる多様な要素を盛り込んで、まちの元気が市民みんなの元気にもつながっていることを表現した。敢えて抽象度をやや高め、暮らしの具体的な姿は次項以降の各項目に委ねている。

②主な意見

【専門部会より】

- まちが元気だから人が集まってくる、という要素が必要 (第 2 部会)
- 元気とは健康増進、長生きのこと (第 2 部会)
- 1－1 だけ抽象度が高く、具体的な 1－2、1－3 と並列しているのが気になる (第 3 部会)

【庁内より】

- みんながイキイキ、まちもイキイキ (人権推進課)
- おだやかな日常 わいわい賑やか 商売上手 健康に対する意識が高い 元気で長生き 生涯住みたいまち 人が多い 暮らすことで自然に健康になる仕掛けがある (ナッジのまちづくり) (健康推進課)
- からだも元気、心も元気 (地域福祉高齢課)

1－2：ホタルも、子どもたちも、光ってる。(旧1－2に一部1－1・1－3の要素統合。)

【説明文】

ゆたかな自然とのふれあいが、子どもたちの体験もゆたかにしてくれます。森に生きる野鳥や昆虫たちの観察、木工教室、川遊び、地元の食材をふんだんに使ったBBQ、子どもたちが顔を輝かせながらホタルを見つめる初夏の夕べ。河内長野の宝は子どもと自然。いっしょにすくすく育っています。

【前回補足説明等】

(1－2)

手入れされた自然の恵み(きれいな水、ホタルが飛ぶ風景、農産物)を子どもも大人も楽しむ。

→ゆたかな自然が身近にあり、子どもたちが顔を輝かせながら、自然に親しんでいる。大人たちもその様子を見て良い表情をしている。

(1－3:水が美味しい。川が、まちが、美しい。)

手入れされた自然の恵み(きれいな水、ホタルが飛ぶ風景、農産物)を子どもも大人も楽しむ。

→石見川の水質や滝畑ダムによる治水が守られ、ふだんの暮らしの中に、おいしい水がある賛沢。

街の美化やごみの適切な処理といった、美しい自然を守るための取り組みも活発に。

①修正内容とその意図

重複感があった旧1－1、1－2、1－3について、自然の保全と活用に関する要素を統合した。

②主な意見

【専門部会より】

- 自然を守るためのみんなの取組みが活発である(第2部会)(1－1)
- 自然を管理し、子どもも里山に触れ、自然観を育んでいく(第1部会)(1－2)
- 「ホタルも、子どもたちも」は良いフレーズ(第2部会)(1－2)
- その源は自然の中で子どもたちが自然に親しみながら生きていけること(第2部会)(1－2)
- 水や川、市民が(良さを)実感できていないのではないか(第1部会)(1－3)
- 安心してあそべる川(心理的にも安全な川)(第1部会)(1－3)
- こどもと川をつなげる→遊んだ記憶は財産に→意識が高まり綺麗な川に(第1部会)(1－3)

【庁内より】

- 自然体験プログラムの充実(図書館)
- 良質な自然環境(環境政策課)

1－3：揺るがない安全と安心感。（旧1－4。コピー変更。）

【説明文】

10年後の河内長野は、今よりもっと安全で、もっと大きな安心感に包まれて暮らせるまちに。それを支えているのは、大阪一を誇る地盤の固さと治安の良さだけではありません。土砂崩れなどの災害対策や、医療・救急・消防・道路・水道などの基盤づくりが進み、安全・安心と同居して暮らせる毎日が、みんなの誇りになっています。

【前回補足説明等】1－3：求心力も抜群？ 日本一「安心」なまちへ。

治安の良さ、地盤の固さが知られ、「安心」がまちのブランドになっている。

山が近いゆえの土砂崩れの心配についても、ちゃんと対策が取られている。

→「安心のまち」として全国的に名前が知れ渡り、それが多くの人を惹きつける求心力（ブランド力）に。

医療・救急や消防などの体制も整え、万一病気になったり火事が起きたりした時も「安心」を感じられるまち

①修正内容とその意図

安全・安心は、人に対する求心力ではなく、ふだんの暮らしを守る基盤であるという観点でコピーを変更。防災から医療や水道まで、安全・安心を確保するための基盤を整える要素を説明文にも追加。

②主な意見

【専門部会より】

- 誰に対する何の求心力だろう（第3部会）、「求心力」が何のことかわからない（第1部会）
- 「求心力も抜群」がわかりにくい→心地よい・穏やか、など違う表現の方が良いのではないか（第1部会）
- 河川の整備と道路整備をしっかりとしていく（第1部会）
- 防犯、再犯防止、生活の安定（第1部会）
- キャッチでは求心力という言葉が「安心」とどう繋がるかがわからない。また、「安心」だけでなく「安全安心」という言葉が適切。（嶋田部会長）

【庁内より】

- きずなが強ければ強いほど、万が一の災害時でも支えあい、復興に向けて立ち向かっていく力がみなぎっていきます。（危機管理課）
- 安定したライフライン、（大規模）災害への備え（下水道課）

1－4：人のつながりも、大きな安心に。(旧 1－5、1－6 を統合・整理。)

【説明文】

地域の人たちも、河内長野の安全・安心を支えるのに、大事な役目を担っています。学校に通う子どもたちのための見守り活動や、防災・防犯活動など、一人ひとりの目配り・心配りが、みんなの安心を育んでいます。人と人とのつながりが広がり、深まることで、安心はもっと、大きなものになっています。

【前回補足説明等】

(1－5:オンラインで、まちづくりに参加？)

デジタル化が進み、市役所にも声が届きやすくなっている。また、負担が重すぎず、若い人や共働きの人も町内会・自治会に参加しやすくなっている。

→小さな子どももいる若い世代が、自宅で寛ぎながら町会に参加しているイメージなど。

(1－6:ちょうどいい近さの、ご近所さん。)

負担が重すぎず、町内会・自治会に入りやすい。デジタル化が進み、若い人や共働きの人も参加しやすくなっている。

→疎遠ではなく、近過ぎもしない、ほど良い距離感で付き合い合えるご近所さん、コミュニティ。

①修正内容とその意図

地域コミュニティに関して重複感のあった、1－5と1－6を統合し、イメージを明確化した。オンライン・デジタルに関する要素は新1－5に集約した。

②主な意見

【専門部会より】

- 地域の活動に対するイメージを、しんどいから「たのしい」へ(第1部会)(1－5)
- 「オンライン」は生活利便性向上全般では(第3部会)(1－5)
- オンラインが関係するのは、「まちづくり」だけではないのではないか。むしろ、「まちづくり」は多様な世代がオンラインに限らず多様な形で参加するのが望ましい(嶋田部会長)(1－5)
- 1－5と近い 同じことを違う言葉で言っている(第3部会)(1－6)
- 近所で助け合うことの大切さが伝わってほしい(第3部会)(1－6)
- 自治会によせてのつながりではなく、防災でつながるご近所とか(第3部会)(1－6)

【庁内より】

- 温かいコミュニティ(子ども子育て課)
- 地域内で気にかけてあう関係がある。程よい距離感。相互の尊重。自治会、まち協、老人クラブなどの活動充実(地域福祉高齢課)

1－5：暮らしの中に、「できる。」がふえる。(旧1－5)

【説明文】

知りたいまちの情報にいつでもアクセスできたり、忙しくて市役所に行く時間がなくても電子手続きで窓口サービスを利用できたり、病院に通えなくても遠隔で診療を受けられたり、AI や新しい技術が暮らしの中に自然に溶け込んで、これまで諦めていたことや難しかったことが、どんどん「できる。」に変わっています。

【前回補足説明等】1－5:オンラインで、まちづくりに参加？

デジタル化が進み、市役所にも声が届きやすくなっている。また、負担が重すぎず、若い人や共働きの人も町内会・自治会に参加しやすくなっている。
→小さな子どももいる若い世代が、自宅で寛ぎながら町会に参加しているイメージなど。

①修正内容とその意図

旧1－5にあったデジタルの活用の要素を、「ふだんの暮らし」に焦点を当てて整理。デジタル化を押し付けるのではなく、出来ることが増える、生活利便性が高まる、という観点でデジタル化を位置付けて、10年後の暮らしをイメージできるように説明文も整理した。

②主な意見

【専門部会より】(1－5)

- 「しんどい」を解決。「楽しい」まちづくりへ(第1部会)
- 「オンライン」は生活利便性向上全般では(第3部会)
- オンラインが関係するのは、「まちづくり」だけではないのではないか。むしろ、「まちづくり」は多様な世代がオンラインに限らず多様な形で参加するのが望ましい(嶋田部会長)
- 「オンライン」という言葉は、(中略)どこか生活利便性の点で取り上げるのがいいと思います。例えば「オンラインで、ふだんも楽々」とか・・・(嶋田部会長)

【庁内より】

- 行政サービスのICT化の推進。地域人材の活用やデジタルコンテンツの導入による教員の負担軽減。地域のつながりが強化されることにより、地域犯罪の減少・防災力の強化につながる。(危機管理課)
- eLTAXを利用した納付(eL-QR納付書)(会計課)

1－6：好きなときに、好きなところへ。(旧2－5)

【説明文】

自動運転などのテクノロジーや、人と人の助け合いを活かして、マイカーがなくても、免許を返納しても、自分の行きたいところへ出かけることができます。新しい地域モビリティやバス・鉄道、ご近所さんとの乗り合いを組み合わせ、いろんな移動が実現。移動中に生まれる人と人の“ふれあい”も、楽しみのひとつに。

【前回補足説明等】2－5:動いた先で、いくつもの感動を。

「くるくる」のような移動手段が南花台以外にもある(免許返納しても困らない)

→自家用車がなくても、活発的に動き回るシニアの方や外国籍の方。動くことで、感動に出会うチャンスを広げていける。

①修正内容とその意図

旧2－5を移動。移動手段が確保されていることは、ふだんの暮らしに不可欠な要素と位置付けて、説明文も整理した。

②主な意見

【専門部会より】

- クルクルを全域に整備してほしい(第1部会)
- 免許証返納後の移動手段(高齢者が多いので)(第1部会)
- 車がなくても生活できる(出かける方、届けてもらう方)(第1部会)
- 元の案(行きたいところへ 行きたい時に)の方がしっくりくる(第2部会)
- 交通手段を選べるように(第2部会)
- 色んな要素を含めているが、混ぜ方に無理がある(第3部会)
- 移動手段の話はもう少し深めたい(第3部会)

【庁内より】

- 新たな道路整備による広域ネットワークの形成(堺アクセス、大阪河内長野線延伸、上原交差点改良)(都市整備課)
- 子どもや高齢者など車の運転ができない人も移動可能な交通網(都市計画課)

「じぶん」が生きるまちって、
どんなまちだろう。

2－1：みんなが、主役。みんなが、ファン。（旧2－1、コピーを変更。旧2－6の要素を一部統合。）

【説明文】

年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、一人ひとりの個性が活かされて、みんなが好きなこと、得意なことを楽しめるまち。そして、なりた
い自分になれるまち。いろいろな人がいて、誰もがどこかに「主役」になれる場所を持っていて、それぞれが誰かの「ファン」でもあって、お互いに応援し合っ
ています。

【前回補足説明等】

（2－1：全員、主役。全員、ファン。）

一人ひとりの個性が活かされ、活躍できるまち。→いろいろな人がいて、誰もが主役になれる。と同時に、それぞれが誰かのファンになって応援もし合っている。

（2－6：みんなバラバラ、みんなイキイキ。）

老若男女、国籍・障がいの有無に関わらず個性が活かされ、イキイキと暮らせる。

→多様な人たちがいて、それぞれの違いを個性として活かし合いながら、みんなが好きなこと、得意なことを楽しんでいる。

①修正内容とその意図

旧2－1の表現を軸に、意見を踏まえて言葉を一部修正。旧2－1・2－2と重複感のあった旧2－6の要素を統合し、説明文に反映した。

②主な意見

【専門部会より】

- みんなが主役、みんなのファン（全体的にひらがなが多いのにここだけ漢字だから）（第1部会）（2－1）
- 「誰もが主役」の方がわかりやすい 語呂も良い（第3部会）（2－1）
- 国際色豊かなまちづくりの視点を持ち、在住外国人との協働を図る（歴史のまちプラス外国人との協働で話題に）（第1部会）（2－6）
- みんなそれぞれ、みんなイキイキ（バラバラよりもそれぞれ）（第1部会）（2－6）
- 「みんなバラバラ」はやはり表現として違和感あり。個性や多様性を認め、お互い尊重することの主旨については異論はないが、それで
あれば「みんなイロイロ」とか「みんなソレゾレ」という感じの方が無難（嶋田部会長）（2－6）

【庁内より】

- ダイバーシティ（多様性・個性を認め合う社会）（自治協働課）
- 外国人労働者も豊かに働いている（産業観光課）
- 市民まつりなど、発表の場がある（総務課）

2-2：支えて、支えられて、活かし合って。(旧2-2、変更なし。旧2-6の要素を一部統合。)

【説明文】

誰かがいつも「支えられる側」になるのではなくて、自分の長所や特技・経験を活かして、誰かを「支える側」にもなれるまち。お互いに気兼ねなく頼みごとができたり、周りの大人たちに支えられて成長した子どもが、自分も誰かを支える側になったり、支え合いの循環が広がっています。

【前回補足説明等】

(2-2)

一方的に「支える側」「支えられる側」ではなく、互いの長所や特性・経験を活かして、地域でイキイキと活躍している。

→自分だけでできないことはどんどん支え合い、自分が好きなこと、得意なことはどんどん活かし合えるつながり。

たとえば、ヤングケアラーと呼ばれる子どもや、ひとり親家庭、障がいをもつ子どもなど、困難な状況にある子どもを支える取り組み。

高齢者や、障がいをもつ方も、一方的に支えられる側ではなく、「支える側」としてこうした取り組みに参加できる

つながりをつくり、そこで誰かに支えてもらった子どもたちが成長して、大人になってまた誰かを支え、支え合いの循環が生まれていくようなまちに。

(2-6:みんなバラバラ、みんなイキイキ。)

老若男女、国籍・障がいの有無に関わらず個性が活かされ、イキイキと暮らせる。

→多様な人たちがいて、それぞれの違いを個性として活かし合いながら、みんなが好きなこと、得意なことを楽しんでいる。

①修正内容とその意図

元の案を踏襲しながら、意見を踏まえて説明文を整理。また、旧2-6の要素を一部統合し、説明文に反映した。

②主な意見

【専門部会より】(2-2)

- できることがある人が「やってみる」になる、参加しやすい工夫を(第1部会)
- 見守りを互いにするなど、高齢者が高齢者を支える(第1部会)
- 2-1と2-2はつながっている？出口が違うの？2-2は福祉？(第3部会)
- 全員皆お互い支え合っていくという話は2-1と繋がる話なので、一体で良いのではないか。ただし、このキャッチフレーズにぶら下がる施策は社会福祉系のものになり2-1とは区別して書くのはそれもアリかと(嶋田部会長)
- 自分を大きく助けられる(第2部会)(2-6)

【庁内より】

- 高齢者が経験を活かし子ども・子育てを支える、子ども・現役世代が高齢者ができないことを支える(介護保険課)
- ボランティアのデータベース整備。参加しやすい地域活動。支えあい活動の普及。活動の支援者の増加(地域福祉高齢課)

2－3：あたらしい一歩、踏み出し放題。(旧：3－2。コピー変更なし。)

【説明文】

何才になっても、いつでも新しいことにチャレンジできて「このまちでよかった。」と思える場所。新しい一歩を踏み出すとき、「このまちがいい。」と思える場所。周りのみんなも、その一歩を応援してくれるから、やりたいことを次々と実現させることができます。

【前回補足説明等】(3－2)

子育て世帯・共働き世帯に選ばれる。／新しく転入した人も地域になじみやすい。

→大切な人と一緒に、あたらしい一歩を踏み出すのに、「このまちがいい！」と思える場所へ。

みんなもその一歩を応援してくれて、支え合っていけるから、新しい生活やチャレンジしたいことをどんどん実現させていける。

①修正内容とその意図

2つ目の問いかけを「ひと」に焦点を当てるという観点から位置を移動。その上で説明文を整理した。

②主な意見

【専門部会より】

- まちで活動する際にいろいろな取組みの選択肢がある（選択肢をみんなが知っている＋参加したい人が参加しやすい環境）（第1部会）
- チャレンジャーが歓迎されるまち（第1部会）
- 挑戦を応援するまち（みんな応援団）（第1部会）
- 人が人を呼ぶまち（良いと思う＋伝えたいと思う）（第1部会）

【庁内より】

- リスキリング リカレント教育 学び直し（図書館）
- 就労支援・生活困窮者支援の強化。ボランティア等の情報充実（地域福祉高齢課）
- 創業がしやすい環境づくり（産業観光課）
- 仕事で失敗しても、保障できる制度があり、チャレンジできる就職先もある（環境政策課）

2-4：地域がまるごと、学校。(旧2-3。コピー変更なし。)

【説明文】

学校でたくさんのことを学べて、学校の外でも学べるのがいっぱいあるまち。10年後の河内長野では、みんなが先生に。自然も先生、スポーツ選手やアーティスト、地域の大人たちも先生。子どもたち自身も、自分で好奇心や探究心を持って調べたことを誰かに伝えれば、立派な先生に。

【前回補足説明等】

こどもが学校・地域で学ぶ場が様々なあり、豊かな体験のもとで成長している。

→教室の中だけが学びの場ではなく、地域全体がゆたかな学び舎に。一人あたりの面積が府内2位を誇る都市公園もさらに整備され、子どもたちやその家族、世代を超えて多くの人が集まる場になり、貴重な学びと交流が生まれる場になっている。

①修正内容とその意図

学校を主眼にしつつ、それ以外の場所でも様々な人から子どもが多くのことを学ぶことができる、という観点で説明文を整理した。

②主な意見

【専門部会より】

- 地域の魅力が感じられるような総合学習の機会を増やすべき。体験する機会が減っている（第1部会）
- 小・中学校の児童や生徒が参加できる催しを行う（学校を超えて、町全体の教育を）（第1部会）
- 学校は上から教え込まれるものではなく、学び合うまちに（教えてもらうのを待つのではない）（第1部会）
- 農業・林業など、みんなが先生（第1部会）
- 学校・幼稚園の授業に、働く人やお年寄りの経験を取り入れる（第1部会）
- みんなが先生（第3部会）
- いろんな大人がいろんな関わり方をする（教える）（第3部会）
- 地域の子どもが学校だけでなく地域全体で学べる、学校の先生だけから「学ぶ」のではないとすれば、「みんなが先生」と言ったキャッチの方がしっくりいくかも（嶋田部会長）

【庁内より】

- 公民館やキックスでこどもを対象にした講座（こども子育て課）
- 卒業生や社会人楽団メンバーによる中高生の楽器指導（市民スポーツ課）
- いつでもどこでも誰とでも学び合える場所（学校教育課）
- クラブ活動など、学校に対しての地域の支援も充実している（総務課）
- くろまるファーム収穫体験（農林課）

2－5：学びを、誰かの喜びに。(旧2－4。コピー変更なし。)

【説明文】

いくつになっても、学び続けられるまち。そして、学んだことを自分の中だけに留めるのではなくて、身につけた知識や技術を、人のため、まちのために活かすことで、誰かの喜びも、人の役に立てる自分自身の喜びも生まれています。ゆたかな「学び」と「喜び」の循環を、河内長野から。

【前回補足説明等】

生涯学習内容を地域に活かせるようになっている。

→大人も学び、その学びを、まちづくりに還元していく好循環が生まれている。

①修正内容とその意図

コピー、位置付けともに変更なし。学びの好循環の要素をもとに、説明文を整理。

②主な意見

【専門部会より】

- 自分（たち）だけ楽しいを、みんなに広げるまちへ（自分が楽しむだけではなく、できることを伝えていく）（第1部会）
- 個々の経験を活かせる仕組みづくり（「まちの国宝さん」的な人材の掘り起こし）（できる人、を探す）（第1部会）
- 共育を通じて地域貢献（第1部会）
- 「学びを」よりも「学んで」ではないか（第3部会）
- 学んだ人が還元する（発表・発揮できる場がある）（第3部会）
- 学んだ人が先駆者になって伝えていく（第3部会）
- 学びが循環する（第3部会）

【庁内より】

- 指導者や活動情報の集約・発信。活動成果の共有。活動場所（公民館、コミセン、自治会集会所など）の柔軟な対応（地域福祉高齢課）
- チャレンジ 一生勉強 学びは喜び、楽しい 学びのまち 素敵な図書館 みんな心豊かになれる町 生徒が先生になれる仕組みがある
うれしい（健康推進課）
- 市内企業の人材も活用（産業観光課）

2-6：住（じゅう）を、もっと自由に。（旧：3-4。コピー変更なし。）

【説明文】

戸建てや団地、マンションでの暮らしも、古民家の活用も、いろいろな住み方、暮らし方を自由に選択できるまち。たとえば、平日はニュータウンで生活し、週末は集落の田畑に出かけたり、空き家をリノベーションして仕事の拠点にしたり、多様な地域の魅力を活かして暮らしの楽しみ方が広がっています。

【前回補足説明等】

住み方の多様性（一戸建てもアパートも古民家も）

→いろいろな住み方、暮らし方を選択できる自由。たとえば、ニュータウンでふだん生活し、週末は集落の田畑に出かける、といった多様な地域の魅力を活かした暮らしの楽しみ方も。

①修正内容とその意図

住宅団地と旧集落が近接する中で、その特徴を活かしてひとが豊かに暮らせるまちを目指すという観点で、説明文を整理。

②主な意見

【専門部会より】

- 若い人が農業（デジタルも）（第1部会）
- 田舎暮らし（山暮らし）ができるように（第2部会）
- ライフステージに合わせて住み替えられる（第2部会）
- 市街地もええけど、秘境もええで（第2部会）
- ウィークエンドを自然の中で←家庭菜園＋小屋（第2部会）
- リモートワーク、サテライトオフィスを古民家で（第2部会）
- 流動人口をふやす（第3部会）

【庁内より】

- IターンUターン テレワーク 週末山暮らし 都会まで30分 二拠点生活（健康推進課）
- 市内企業に従事する単身者や外国人労働者の住居確保が課題ときいている。多様化する労働者への住居提供も必要。（産業観光課）
- 高齢になって開発団地から駅近くの住宅に引っ越す人も多い（水道課）

これから、どんな「好き。」を
深めていけるだろう。

3-1：まちの顔を、笑顔でいっぱい。(旧3-1、変更なし)

【説明文】

“まちの顔”になる場所がいくつもあって、たくさんの笑顔があふれる場所に。みんなの手で景観を美しくしたり、おいしいお店や楽しいスポットができたり、商店街の新しい活用法にみんなでチャレンジしたり。地元の人、観光客の人たちも、いろんな所でいろんな「好き。」との出会いが生まれています。

【前回補足説明等】

住む人、訪れる人にとって、まちの顔となる駅前が整備され、にぎわっている。

→まちの顔である駅が、笑顔の人々であふれ、駅も笑顔に。

駅を基点に、まちの景観が美しくなったり、新しいお店や楽しいスポットができたり、商店街が再び活性化したり。それが人を惹きつける魅力となって、地元の人、観光客の人たちも集まり、各所に活気があふれている。

①修正内容とその意図

コピーは変更していないが、駅前に特化せず、河内長野のイメージが伝わるような「顔」がいくつもあり、そこで市民も市外の人楽しんでいるという意図を説明文で表現した。

②主な意見

【専門部会より】

- 楽しいシーンをたくさん作り、世代間交流を促進（第1部会）
- 駅に親しみと愛着を（大事に思ってもらえる）（第2部会）
- 「まちの顔」は駅で良いのか？（第2部会）
- インキュベーション施設ができないか？→商業活性化につなげる（第2部会）
- 醤油蔵を中心とした商店街スペースづくりができないか（第2部会）

【庁内より】

- 官民連携によるまちづくりの推進（都市整備課）
- 行きたくなる店がある、それが市外でなくてもある（介護保険課）
- テーマを考えた街並み たたとえば酒造あたりに、関連するお店（バル、お酒に関する小物販売、お酒を学ぶ教室等）ができて、みんなで商売を考えたら楽しい街になる（健康推進課）

3-2：サクセスフルな、サステナブル。(新設)

【説明文】

自然を守るための活動がもっと盛んになり、資源のリサイクル率は府内トップレベルから全国トップレベルに。ゆたかな森林と市民活動をもとに、脱炭素社会の実現をリードするまちとして注目が集まっています。美しい自然や公園、まちの景観を、思い入れをもってみんなで守り、活用することで、一人ひとりのまちへの愛着がさらに深まっています。

①修正内容とその意図

脱炭素社会や循環経済といった、近年の重要なトピックをカバーする要素がない、という問題意識から、項目を新設した。

②主な意見

【専門部会より】

- （新設のため意見無し）

【庁内より】

- 希少動植物の保護や外来生物対策により、生物多様性を守る（環境政策課）
- 体験型の環境学習等の実施により、環境を守る人を育てる（環境政策課）
- 温室効果ガス排出量の削減を図り、脱炭素社会をつくる（2050年ゼロカーボンを目指す）（環境政策課）
- 企業のアドプトフォレスト活動（農林課）
- 「コーヒー豆かす×森」地域資源循環プロジェクト（スタバとの連携協定）（農林課）
- 街並みや景観、環境共生が進めば、きれいで心地よく暮らすことができる（危機管理課）

3－3：“ここにしかない”時間を求めて。（新設）

【説明文】

都心から30分の場所にありながら、自然や文化・歴史を感じられるまち、河内長野。自然と親しむアウトドア体験、ながく大切に守り継がれてきた神社仏閣。ここにしかない時間がゆっくりと流れていて、国内外から多くの人を惹きつける魅力になっています。慌ただしい日々の中で失った時間を取り戻し、ゆたかな時間を蓄えていく。そんな時間の楽しみ方が、ここにはあります。

①修正内容とその意図

観光・シティープロモーションにつながる項目を出していけないか、という観点から項目を新設した。いわゆる「来て、見る観光」ではなく、来た人と市民が楽しそうにしゃべっているイメージで、外から来た人が魅力を感じて市民が誇りに思う、ということにつなげたい。

②主な意見

【専門部会より】

- 道路整備、宿泊施設の整備（旧3－1、第1部会）
- 女子サッカーチームなどを推しているがスポーツ施設がないので招待できない。推しを招待できる施設・宿泊施設の整備を（旧3－3、第1部会）

【庁内より】

- 大阪っぽくない豊かな自然フィールドを活かしたアウトドア体験や登山・サイクリング、そして、千年もの間守り継がれてきた寺社仏閣など、人を惹きつけるたくさんのポテンシャルがあります。外からの新たな視点とポテンシャル磨きで再価値化を図り、身近に非日常を体験できるまちに（産業観光課）
- 河内長野には、豊かな自然と歴史文化遺産にあふれています。そこに、河内長野でしか味わえない食と体験が組み合わさることによって、新たな交流人口と経済の好循環が生まれ、まちがもっともっと元気になります（危機管理課）
- 交流人口の増加。宿泊施設の充実。観光資源の有効活用（市民スポーツ課）
- 関西サイクルスポーツセンター、観心寺・金剛寺等の日本遺産（環境政策課）

3－4：地産地消で、日本一の給食カレーを。（新設）

【説明文】

恵まれた自然と新しい農業の担い手たちの力を掛け合わせて、地産地消の取り組みが進み、河内長野産のおいしい食材が、まちの食卓を彩っています。学校の給食でも地元で採れた野菜をつかって日本一おいしい給食カレーをつくったり、おいしくて体にもやさしい食文化がまちじゅうに広がっています。

①修正内容とその意図

市民ワークショップや、庁内での検討の中で、農産物の魅力をもっと活かしたいという観点の意見が多かったことから新設した。

②主な意見

【専門部会より】

- 河内長野市立農学部（旧 3－3、第 2 部会）
- 若い人が農業（デジタルも）（旧 3－4、第 1 部会）
- 収益性の高い稼げる農業（ブランド・希少価値）（旧 3－5、第 2 部会）
- 職農、農住近接（ブランド・希少価値）（旧 3－5、第 2 部会）

【庁内より】

- 学校での給食にも地産地消の取組みが進めば、おいしくて体にもやさしい食文化がまちじゅうに広がるだけでなく、河内長野産のおいしい食材が、まちの食卓を彩っていきます（危機管理課）
- 農家さんは、もっともっとおいしい食材を追求し、料理人さんは、おいしい食材をさらにおいしくなるように調理することで、お腹がグーなりばなしで、笑顔が絶えません（危機管理課）
- 食育の推進。好き嫌いが無くなる（市民スポーツ課）

3-5: “推し”と出会えて、育てるうれしさ。(旧3-3、コピー修正。)

【説明文】

地域に息づく歴史や文化財、お祭り、よく行くお店や公園、河内長野を拠点にするスポーツチームやアーティスト、ダンスチームや吹奏楽団、企業やボランティア団体……、一人ひとりが自分の“推し”と出会えて、ただ遠くから見守るだけではなく近くで応援できるような、ワクワクするつながりがまちにあふれています。

【前回補足説明等】3-3: 推せるものを、育てるうれしさ。

市民が応援したい、大切にしたい、と思うものがそれぞれにあり、市民が主体的にそれを守り育てている(スポーツチーム、歴史・文化財、お祭り、公園)
→一人ひとりが自分の推しを持ち、自分たちの手でそれを育てていく

①修正内容とその意図

旧3-3をベースに、意見を踏まえてコピーを修正(「推せるものを」⇒「“推し”と出会えて)」し、説明文にも意見を踏まえた要素を追加。

②主な意見

【専門部会より】

- 推しを育てる嬉しさや楽しさや喜びを感じられるまちであればよい(第1部会)
- スポーツの例のように、地域に招聘できる団体を積極的に呼ぶ(第1部会)
- 推しが見つかるまちとして、推される可能性があるものを伝えていく(第1部会)
- 芸術もある(美術、音楽……)(第3部会)
- 市民が主体的に「推し」に関われる(第3部会)
- 説明文中の推せるものの例としては、芸術(バレエ?)、自然も当然あり。推しのものを育むだけでなく、他に誇れるようになればなお良い(嶋田部会長)

【庁内より】

- 地域に息づく歴史や文化財、お祭り、よく行くお店や公園、河内長野を拠点にするスポーツチームやアーティスト、ダンスチームや吹奏楽団、企業やボランティア団体……(危機管理課)
- 魅力的なモノ、キャラ、催し、社会活動(環境政策課)

3-6:「好き。」が集まれば、すごい力に。(旧3-6、コピー修正。)

【説明文】

河内長野がみんなの「好き。」であふれたまちになって、みんなで見つけて持ち寄ったいくつもの魅力が「まちのブランド」になり、広く全国へと伝わっていく。みんなで愛着と誇りを持って、このまちでの暮らしを楽しむことが、そのまま、まちづくりにも活かされていく。そんな未来が、始まろうとしています。

【前回補足説明等】3-6:つながって、叶えていく。

つながり、やりたいと思って行動したことが「実現できる」まち

→どんどん新しい一歩を踏み出すだけでなく、みんなでつながって力や知恵を出し合えば、実現したいゴールまで辿り着けるまちをつくっていける。

①修正内容とその意図

構想の結びに当たるコピーとして、旧3-6の要素をベースにしつつ、シビックプライド（市民のまちへの愛着・誇り）、みんなでまちづくりを担っていこうという要素を、意見を踏まえながらコピーと説明文に込めて整理。

②主な意見

【専門部会より】

- 「私のまち」を大事にしたい気持ちを育て、自分事として行動できる人を育てる（第1部会）
- 世代にとらわれずつながりを感じられる機会を（第1部会）
- 集う場所の拡充（子育てする人が、子どもを遊ばせられる。悩みを打ち明けられる、一人じゃないと思える場所等）（第1部会）
- こどもと年長者が交流を持てる催しを増やせばよい（既存のお祭りなどについて、若者が参加しやすい形に（第1部会）
- つながる場づくり、場があるまち（第2部会）
- やりたいことがつながって実現できる（第3部会）

【庁内より】

- 「好き！」は最強の原動力（秘書課）
- 市民の好きな店やスポットコンテスト開催（こども子育て課）

3. 基本理念・その他

- 全体を通じて、コピーや説明文中に使われていた「！」を「。」へ変更（庁内意見等を踏まえて）。
- 「千年都市」について、「都市」という表現に違和感を覚えられたという意見を複数いただいている。（京都とは異なるので「都市」ではなく「まち」ではないか、等）事務局で検討を重ね、「まち」と「都市」で大きく意味は変わらないこと、「千年都市」という語感が「千年のまち」などとするよりインパクトを持って伝わりやすいという判断から、修正せずそのままとした。

以上